

麻酔科・手術科臨床研修プログラム

【指導医】

越崎 雅行（医療局次長／麻酔科部長）：日本麻酔科学会 麻酔科認定指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本救急医学会 救急科専門医、厚生労働省麻酔科標榜許可、ICD制度協議会 インфекションコントロールドクター、緩和ケア研修会修了
日本医師会認定産業医

佐々木 敦子（麻酔科医長）：日本麻酔科学会 麻酔科認定医、厚生労働省麻酔科標榜許可、緩和ケア研修会修了

和田 穰（麻酔科医長）：日本麻酔科学会 麻酔科認定指導医、日本専門医機構認定 麻酔科専門医、JB-POT認定医、緩和ケア研修会修了

【上級医】 岩田 雅人 大谷 一志 横井 いさな

【期間】：4週間（必修）

【一般目標 GIO】

手術における麻酔を中心に、気管挿管などの気道確保や、輸液路確保の手技の確立と呼吸循環動態の維持を通して、全身管理の基礎を身につける。患者の術前状態と現存する合併症を把握し、その情報を基本とした麻酔計画を立案する。手術室における、清潔不潔の概念を理解し実践する。

【行動目標 SB0 s】

1. 患者の術前状態をASA PS 分類し、手術手技を把握し、麻酔計画を立案する。
2. 患者の社会的背景や精神的背景を理解し、チーム医療を実践できる。
3. コメディカルスタッフとも良好な人間関係を築くための理解と実践ができる。
4. マスクによる補助呼吸、標準的な気管挿管や LM 挿入による呼吸管理ができる。
5. 手術の内容に適合する、末梢静脈路確保ができる。
6. 動脈血採血、観血的動脈圧測定、基本的な動脈血ガス分析ができる。
7. 指導医とともに局所浸潤麻酔法が実践できる。
8. 指導医とともに脊椎くも膜下穿刺・麻酔が実践できる（一か月）。
9. 指導医とともに仙骨・腰部硬膜外穿刺・麻酔が実践できる（二か月）。

指導医とともに定期手術の低リスク患者の麻酔管理が実践できる。

1. 指導医とともに、術前・術後患者訪問ができる。
2. 緊急手術の必要性が理解でき、重症度を把握し麻酔計画を立案する。
3. 輸血の適応と種類を理解し実践できる。
4. 電解質異常の診断、血糖管理などの輸液治療が実践できる。
5. 手術体位による合併症とその予防を理解し実践できる。
6. 体温管理を実践できる。
7. 手術終了時の患者評価と合併症に対する診断と治療ができる。
8. 手術侵襲に応じて、術後疼痛を緩和する方策を計画し立案する。

【指導体制・方略】

1. 術前・術後訪問を除き、ほとんど手術室内での研修となる。更衣室にて手術室専用ユニフォームに着替え、帽子、マスク、名札を着用。
2. 指導医のもとで、各術式に適する麻酔法を経験し、知識・技術・態度を習得する。
3. 担当症例においては、レポートを提出する。
4. 研修にあたり「麻酔科研修の手引き」を参考にする。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
8：30 までに	手術室内に手術専用ユニフォームに着替えて集合する。				

【評価】

病院の評価方法に準じる。

1. 自己評価

- ・PG-EPOCにて自己評価する

2. 指導医による評価

- ・手術室麻酔診療・術前病棟診療において、診断的技能、態度についての指導医による評価を行う。
- ・手術室麻酔診療・術前病棟診療において、治療的技能、基本手技についての指導医による評価を行う。
- ・術前カンファレンスでの症例提示において、問題把握、対処法へのアセスメントに関して指導医による評価を行う。
- ・術前カンファレンスの症例に対する他職種との検討において、チーム医療としてのコミュニケーション能力に関して指導医による評価を行う。
- ・指導医は、他者評価表を用いて指導者の評価を行う

3. 研修医による評価

- ・PG-EPOCを用いた指導内容、研修環境等の評価を行う
- ・他者評価表を用いて指導医、指導者を評価する
- ・研修委員会の行うアンケート調査に応じる

4. 指導者による評価

- ・指導者は、他者評価表を用いて研修医、指導医の評価を行う。